

# 目黒川お散歩図鑑

--川から目黒地域の歴史を訪れて--

17N1077 張航



# 目次



広重作『絵本江戸土産10編』の7編より  
(国会図書館蔵)

- 目黒川
- 目黒川のお散歩ガイド
- 目黒川付近の観光名所
- 歴史上の目黒川
- 近代目黒川流域の変革

# 目黒川

目黒川は、世田谷区池尻付近で鳥山川と北沢川が合流して始まり、東品川付近で東京湾に注ぐ長さ7.8kmの河川である。

桜並木で有名な目黒川沿いを、中目黒から天王洲まで、同じ川でも場所によって趣が違うので、ゆったり流れる川に身を任せ、色々な景色を楽しめる。



目黒新橋から見る目黒川と太鼓橋 自撮 (3/30)

# 目黒川お散歩ガイド



目黒川のpromナード (google mapより作成)

# 目黒川付近の歴史名所 太鼓橋



太鼓橋は1769年(明和6年)に始めてできて、最初は当時にもとても珍しい石造りの橋だった。太鼓形のアーチになってたのでそのまま名前にした。150年ぐらい経って1920年に豪雨で壊され、翌年木橋で再建し、昭和7年に東京市編入記念事業として鉄橋に架け替えられ、平成3年の目黒川改修工事に伴い現在の橋になった。太鼓形ではないが、橋名は昔のまま受け継がれている。広重の「名所江戸百景」の中にも描かれた。

江戸時代の太鼓橋と現在の対比写真  
写真家喜千野、歌川広重「江戸名所百景」より

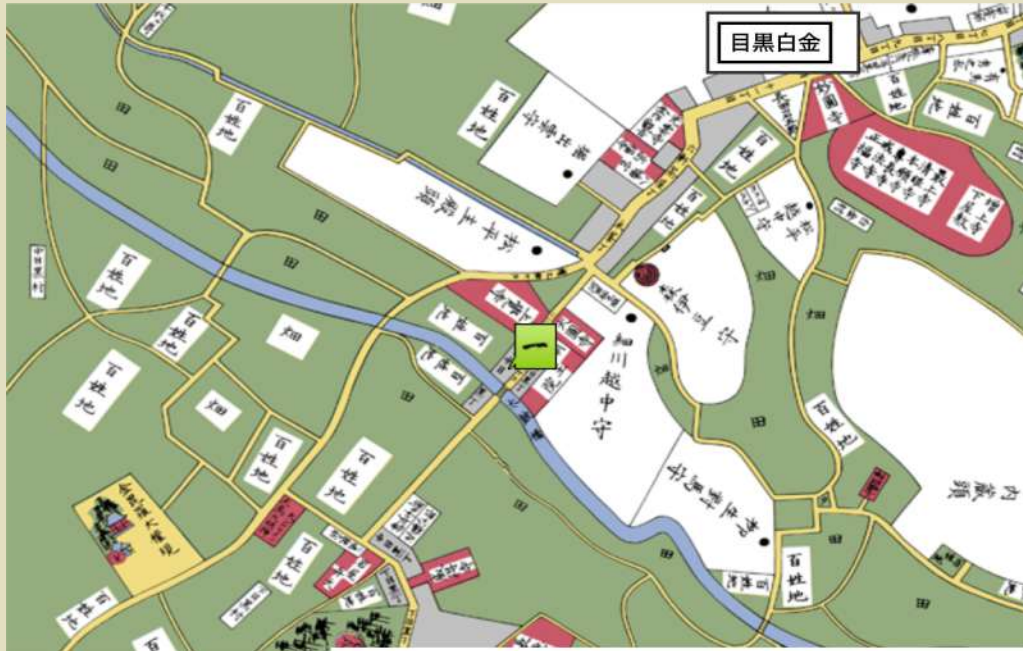
# 歴史上の目黒川

幕末から明治初期頃、「目黒川」の岸边には水車が設けられ、製粉や精米などが行われていた。明治中期頃になると煙草製造や薬種精製など工業用途にも使用されはじめた。一方、江戸初期に「玉川上水」から引かれた「三田上水（後の三田用水）」は、上水道としてだけでなく、周辺の農民にも灌漑用水として余水の利用が許されて、農村の経済を支えていた。明治に入ると、同用水は工業にも使われるようになり「目黒火薬製造所」（現「防衛省防衛研究所」）や「日本麦酒醸造会社」（現「サッポロビール」）が現在の目黒区三田に設立されて工業化が進んだ。



歌川広重 「名所江戸百景 目黒新富士」より

# 近代目黒川流域の変革

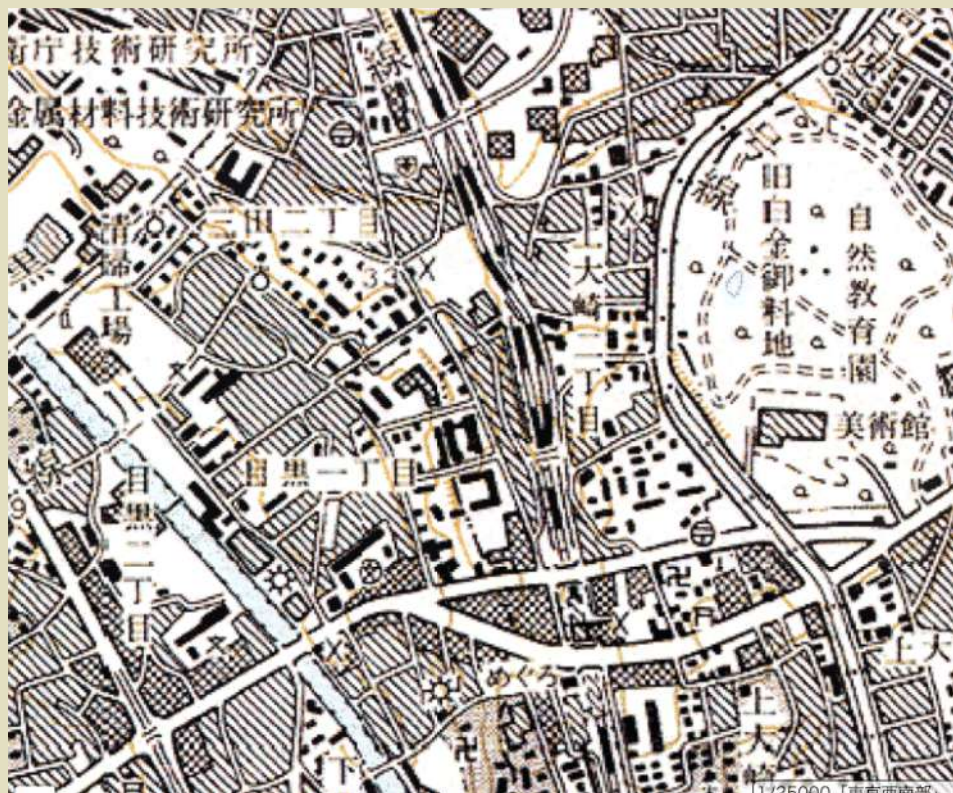


江戸切絵図 (人文社より)



昭和38年(1963年)(goo mapより)

# 近代目黒川流域の変革



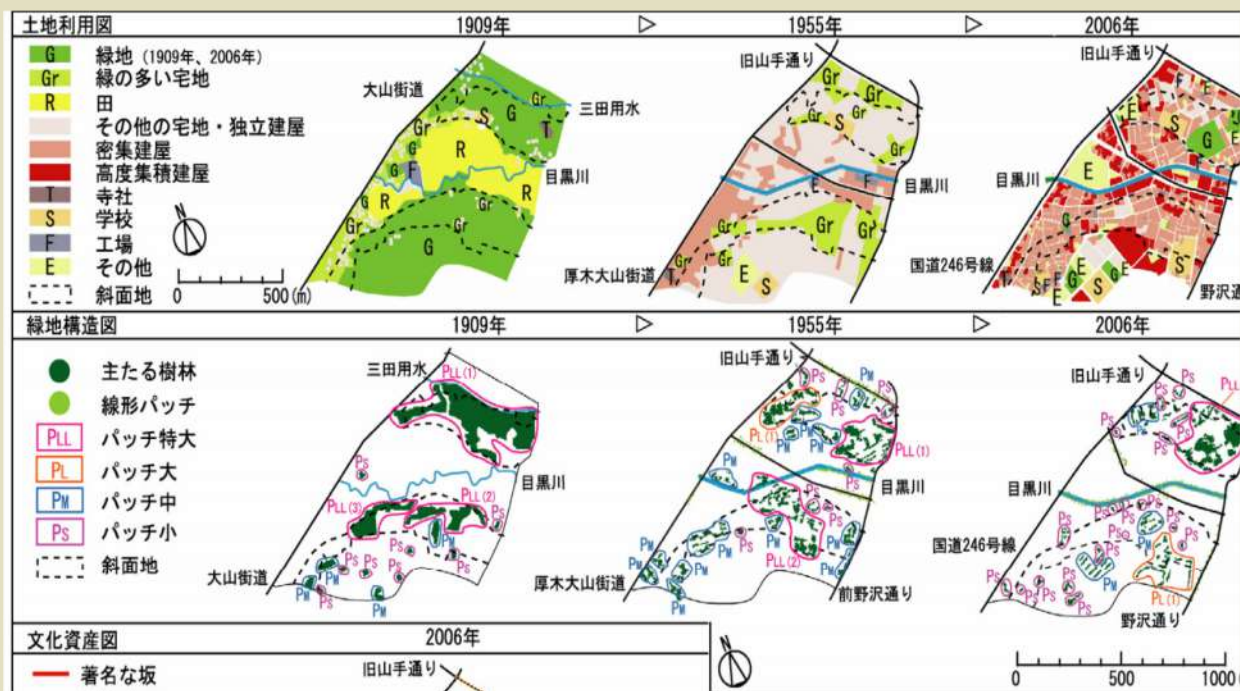
平成4-7年（1992-1995年）（今昔マップより）



現在(google mapより)



# 近代目黒川流域の変革



## 目黒川流域環境の整理

『東京都目黒川流域における緑地構造の歴史的変遷に関する研究』より

明治時代「三田上水」は灌漑用水として使われ、目黒川沿いは田畑が多く、または大規模な森林があった。明治以降、大正12年の関東大震災、昭和2年の東横線開通などを主な契機として、比較的環境に恵まれた住宅地域へと変化してきた。

産業的には、明治期に目黒川や三田用水の利用を目的とした工業集積が始まり、昭和に入ると、京浜工業地帯の後背地として工業集積が進行するとともに、商業では、宅地化の進行に伴い、近郊農地から最寄り品商業地として近隣商店街が形成され、中目黒や自由が丘をはじめとするおしゃれな商業地を擁する地域として発展してきた。

ご清聴ありがとうございます

17N1077 張航